

志布志市立尾野見小学校 第3学年

【授業実践のポイント】

- ① 児童が自分事として道徳的価値を捉え自分の考えをもつことができるように、自分を見つめるための指導を工夫した。
- ② 児童がよりよい生き方について自分の考えを深めることができるように、発問を工夫した。

1 主題名 「相手とわかり合って」[B-11] 相互理解, 寛容]

(1) 教材名 「心をしずめて」(日本文教出版『小学どうとく 生きる力 3』)

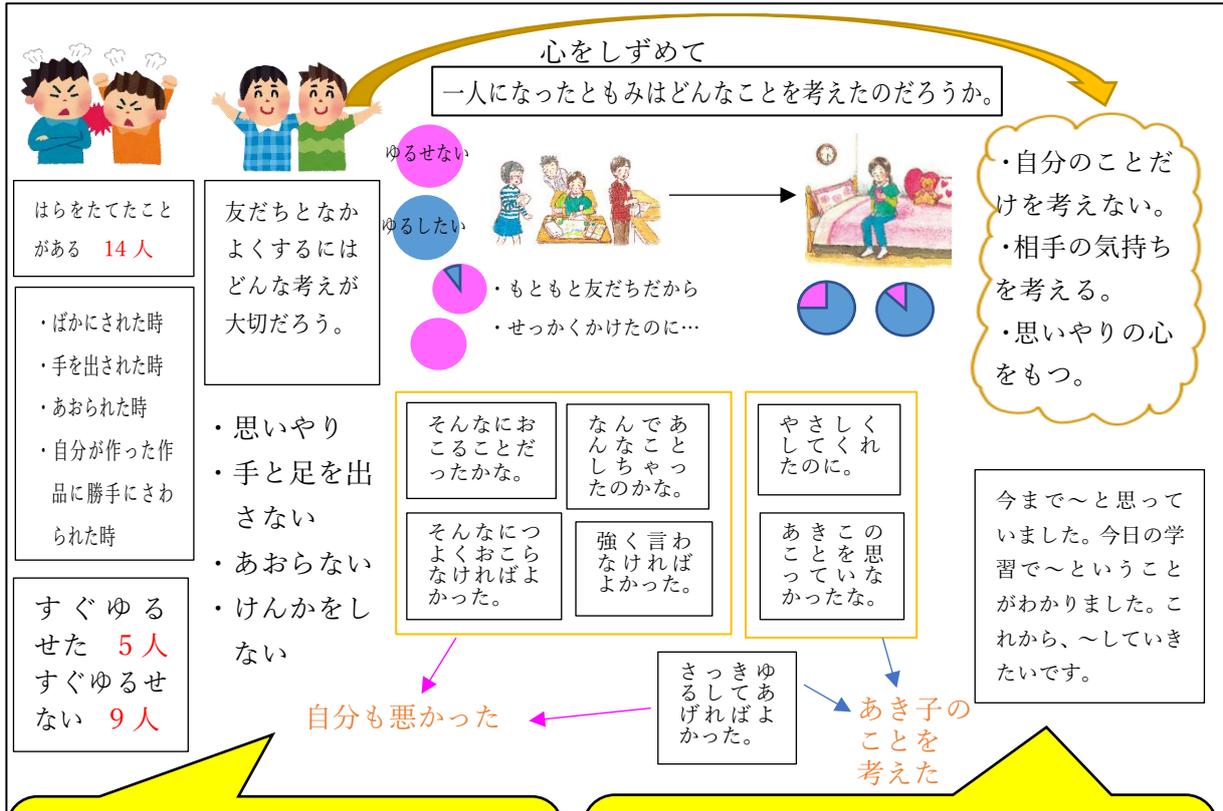
(2) 本時のねらい

友達と分かり合うために大切なことについて、場面ごとの心情を捉えたり気持ちの変化の背景にある思いを考えたりする活動を通して、落ち着いて相手の考えを理解しようとすることや自分のことばかり考えてはいけないということに気付き、互いに相手を理解し尊重しようとする態度を養う。

2 授業の展開

過程		主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	気付く	1 アンケート結果を基に「相互理解」について問題意識をもつ。	5	○ 事前アンケートの結果を提示して、自分にも人を許すことができなかつた経験があることを具体的に想起させることで、一人一人問題意識をもたせるようにする。
		2 本時の課題をつかむ。 【テーマ発問】 友だちとなかよくするには、どんな考えが大切だろう。		
展開	捉える	3 教材の範読を聞く。	5	○ ともみとあき子が分かり合えなかつたところを考えさせる。
	深める	4 教材を基に話し合う。 (1) 二つの場面の「ともみ」の気持ちの変化を捉える。 (2) 「ともみ」の気持ちの変化の背景にある思いを考える。 【中心発問】 一人になったともみはどんなことを考えたのだろうか。	20	○ 気持ちの変化を視覚的に捉えさせるために、二つの場面の「ともみ」の気持ちを、心情カードを使って表現する。 ○ 気持ちの想像ができない児童に対しては、自分の考えた心情カードを基に考えさせる。 ○ 多様な考えを聞き合う中で、補助発問を通して、意見を交流し、ねらいとする価値に気付かせる
		5 ペアで考えた意見を基に互いの意見を交流する。		
見つめる	6 本時の課題について考えを、道徳ノートに書き、発表する。 【テーマ発問】 友だちとなかよくするには、どんな考えが大切だろう。	10	○ 新たな考えや気付きを認識させるために、導入過程での自分の考えを振り返らせ、今の自分の考えと比較させる。	
終末	あたためる	7 本時の学習の振り返りをする。	5	○ お互いの感想を交流し、本時の学びや考え方の深まりを賞賛する。

〈板書〉



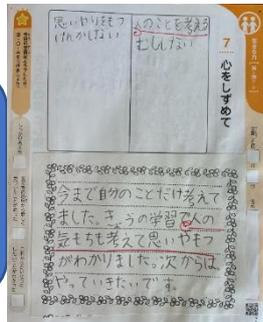
これまでの経験を具体的に想起させるために事前のアンケート結果を提示し、登場人物の心の変化を考えさせるために心情カードを用いる。

児童に考えさせたいことを本時のテーマ発問として設定し、導入時の考えと終末の考えを比較させ新たな道徳的価値に気付いたことを認め称賛する。



言語化が苦手な児童のために心情カードを用いて自分の考えを示す場を設ける。

〈授業の様子〉



道徳ノートを半分に分けて、テーマ発問について導入時と終末の過程で自分の考えを書かせ、比較できるようにした。

〈ノートの工夫〉

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 導入で事前のアンケート結果を提示し、具体的な自分の体験を想起させることで、道徳的価値を自分事として捉えさせることにつながった。
- イ テーマ発問を位置付け、中心発問を工夫することで、互いの考えの交流の活性化につながり、よりよい生き方について考えを深める様子が見られた。

(2) 課題

- ア 道徳的価値を自分事として捉えさせるために、ペアでの対話や全体での意見交流が活発化するような手立てを考える必要がある。
- イ 児童の意見を交流させる際に、教師主導で進めてしまう場面が見られることがあるので、児童自身が深く考え、新たな道徳的価値に気付くことができるような補助発問や板書計画を準備する必要がある。